

環境教育論

持続可能な社会づくり

日時：平成22年11月21日（日） 10:00～15:00

講師：竹内 恒夫（名古屋大学大学院環境学研究科教授）

概況



◎環境教育論(持続可能な社会づくり)

・持続可能な社会づくりとは

自然共生社会、低炭素社会、循環型社会といった環境への仕組みを解決することを目指すものである。

・自然共生社会とは

快適な環境を保全・創造していくために、環境とふれあうことによって環境に対する確かな認識を育み、環境に配慮した行動を行い、環境からの恵みを守り育てていく社会を指す。

・低炭素社会とは

低炭素社会とは二酸化炭素の排出が少ない社会のこと。社会に多大な悪影響をもたらす地球温暖化の緩和を目的として、その原因である温室効果ガスのうち、大きな割合を占める二酸化炭素の排出が少ない社会を構築することが必要である。

・循環型社会とは

循環型社会とは、環境への負荷ができる限り低減される社会を指す。例えば、製品

等の廃棄物転換へ抑制、製品等の循環的な利用の促進、否循環的な利用の循環資源の適正な処分の確保、天然資源の消費を抑制などがある。

①名古屋リユースビン

循環型社会なごやの実現をめざし、リユースを推進するため、リユースびんの復権と普及と日用品のリユースシステムの企画・実証を、NPO や行政、企業等と協働で実施した紹介があった。

②名チャリプロジェクト

名古屋市は全国でも有数の放置自転車が多い都市である。その放置自転車を再使用し、コミュニティサイクルとしての活用を試みた「名チャリプロジェクト」の紹介があった。過去 2 回の社会実験から、放置自転車の削減、CO2 排出量の削減、地域活性化等の効果を生む可能性を把握することができた。